

「誰でも始められる

「お金の人生設計」



たくさんの人に
正しい投資教育を！

ファイナンシャルプランナー 岩城みずほ

なぜ貯めなければならないか

1)とにかく長生きをするだろうと覚悟する。

■ライフステージは、3つから4つへの時代（『LIFE SHIFT』）

■老後の生活費が今より大幅に減ると楽観しないこと

2)年金だけでは不足が生じる。

■ お金がなくなって困ったとならないために、十分計画的に自分で老後の資金を貯める必要がある。

■ 運用で大きく増やすということを前提条件に組み込まずに、必要額を計画的に貯めることを考えるのが堅実なやり方。合わせて、リスクを取って運用することも大切。

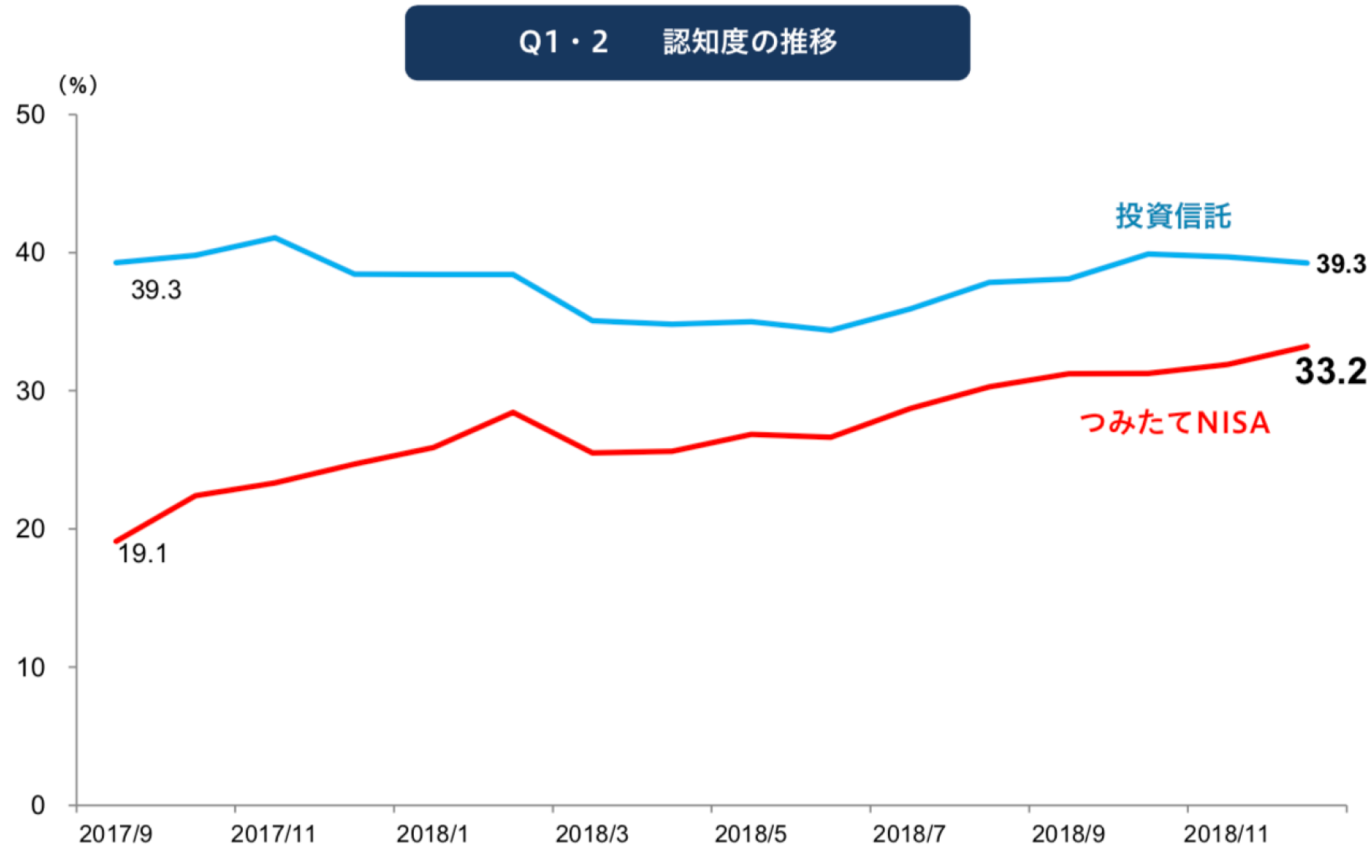
■ お金を適切な場所に起き、お金にも働いてもらい、自分もしっかり、なるべく長く働くこと！



今の収入は、将来の自分を支えるお金でもあるよ！

つみたてNISA・投資信託の認知度の推移

- ・ 2018年12月のつみたてNISAの認知度は33.2%で前月比1.3%pt上昇



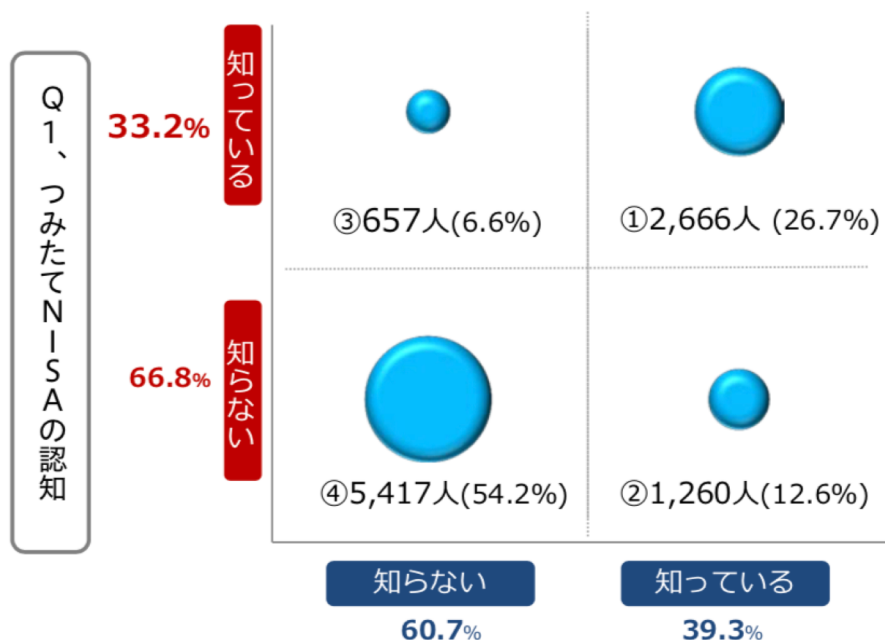
出所：三菱UFJ国際投信調べ 調査時期：2017年9月～2018年12月
調査方法：インターネットリサーチ 対象：各月20～69歳の男女各月10,000人

1万人のうち半数は“両方知らない”

- ・ つみたてNISAの認知度は少しずつ上昇
- ・ つみたてNISAも投資信託も“両方知らない”層は1年経過して減少傾向に

つみたてNISA・投資信託の認知の4分類シェア

※数値は2018年12月時点



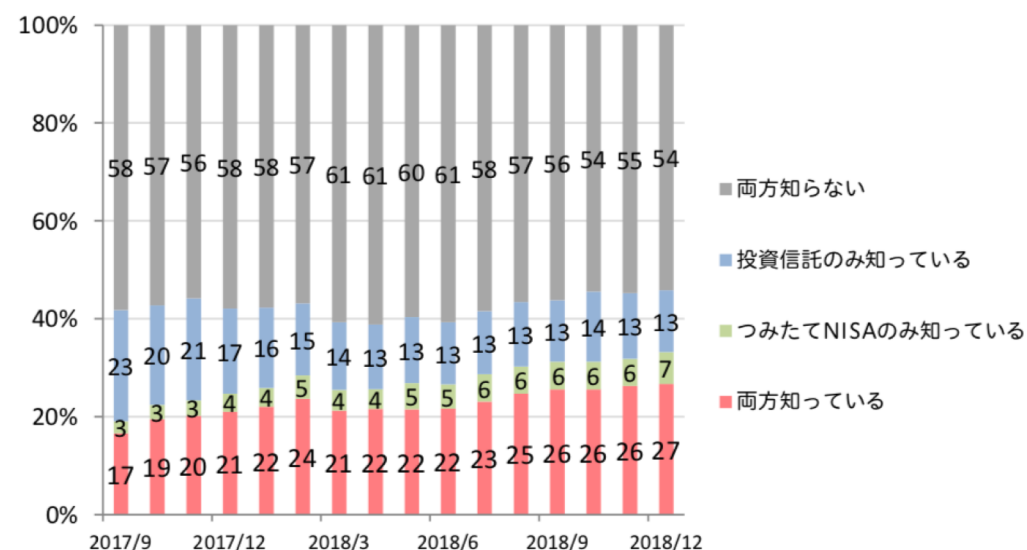
[n=10,000]

【回答の区分】

- ① つみたてNISAも投資信託も知っている
- ② 投資信託のみ知っている
- ③ つみたてNISAのみ知っている
- ④ 両方知らない

Q2、投資信託の認知

左記4分類のシェアの推移



調査時期：2017年9月～2018年12月

調査方法：インターネットリサーチ 対象：20～69歳の男女各月10,000人

投資とは何か

お金を増やすためには3つの方法しかありません。

◎収入をふやす ◎支出を減らす ◎お金を働かせる

お金を働かせるって？



今すぐお金が必要



今すぐには必要のないお金
(生活費ではない
余裕資金)

お金を活用して世の中のためになるビジネスをする。みんなに感謝されて、会社が成長する。**このようにお金を増やすことを投資という！**



お金をに使わせてくれてありがとう！
感謝のしるし = リターン

投機とは、結果に法則性がない。結果をコントロールできない。

投資とは、結果にある程度、法則性がある。結果をある程度、コントロールできる。

短期投資とは、値動きにかけて売買で儲ける。

長期投資とは、会社のオーナーになって資産を殖やす。

資産運用とは、将来必要になるお金を、いちばん適した方法で増やして行くこと。自分の金融資産全体を長期にわたって安定的に増やすこと。

「お金の人生設計」を早くから始めることが大切

老後の生活費を具体的に考えることで、いま貯めなければならぬ「必要貯蓄率」がわかる。

【参考】

ねんきん定期便の金額 + 60歳になるまでの年数 × 年収 × 約0.0055

基礎年金は1年保険料を納めると2万円増える。満額で779,300円(H30度)

$$\text{必要貯蓄率 (s)} = \frac{\text{老後生活費率 (x)} \times \text{手取り年収 (Y)} - \text{年金額 (P)} - \frac{\text{現在資産額 (A)}}{\text{老後年数 (b)}}}{\left(\frac{\text{現役年数 (a)}}{\text{老後年数 (b)}} + \text{老後生活費率 (x)} \right) \times \text{手取り年収 (Y)}}$$

今後の現役時代の平均の手取り年収(Y)を入れる

20年以上後なら厚生年金(サラリーマン)で現役可処分所得の0.3倍程度

現在資産額 (A)

老後生活費率 (x)

手取り年収 (Y)

年金額 (P)

老後年数 (b)

余裕を持って95歳くらいまでとしておきたい。

「岩城みずほ」と検索していただければHPに計算サイトがあります。
<https://www.officebenefit.com>

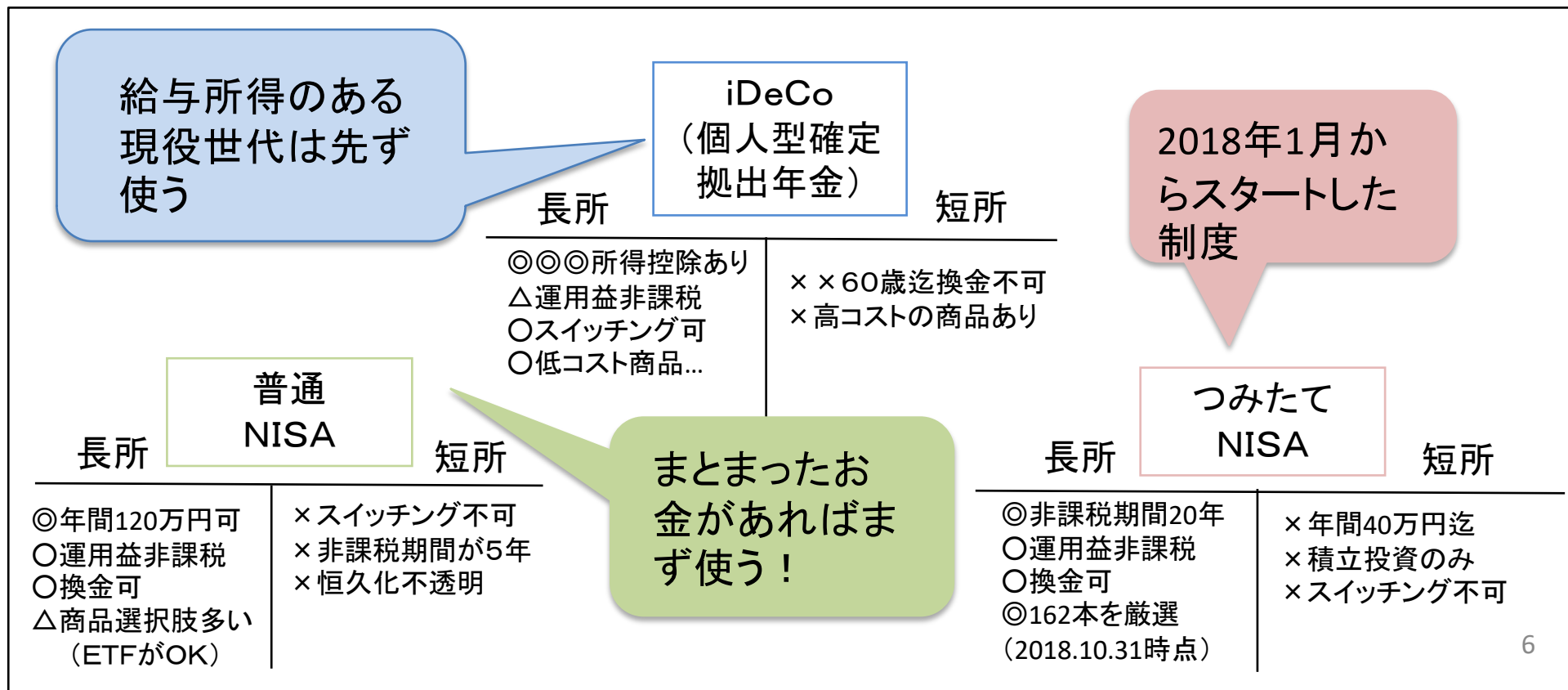


今の収入は将来の自分を支えるお金でもあるよ！

「お金の置き場所」を作る

- ◎生活費の半年～1年分 → 「流動性」重視で、「普通預金」に。
 - ◎近い将来必要になるお金 → 「安全性」を重視して、「定期預金」や「個人向け国債変動10年型」に。
 - ◎当面使う予定のないお金 → 「収益性」を目指して、投資信託や株式などで運用する。
 - 1) 確定拠出年金制度を優先的に 2) NISA 3) ネット証券などの一般口座
- 適切に選択し、もっとも合理的で効率的な手段をとるべき。

(参考) 税優遇のある運用制度の比較





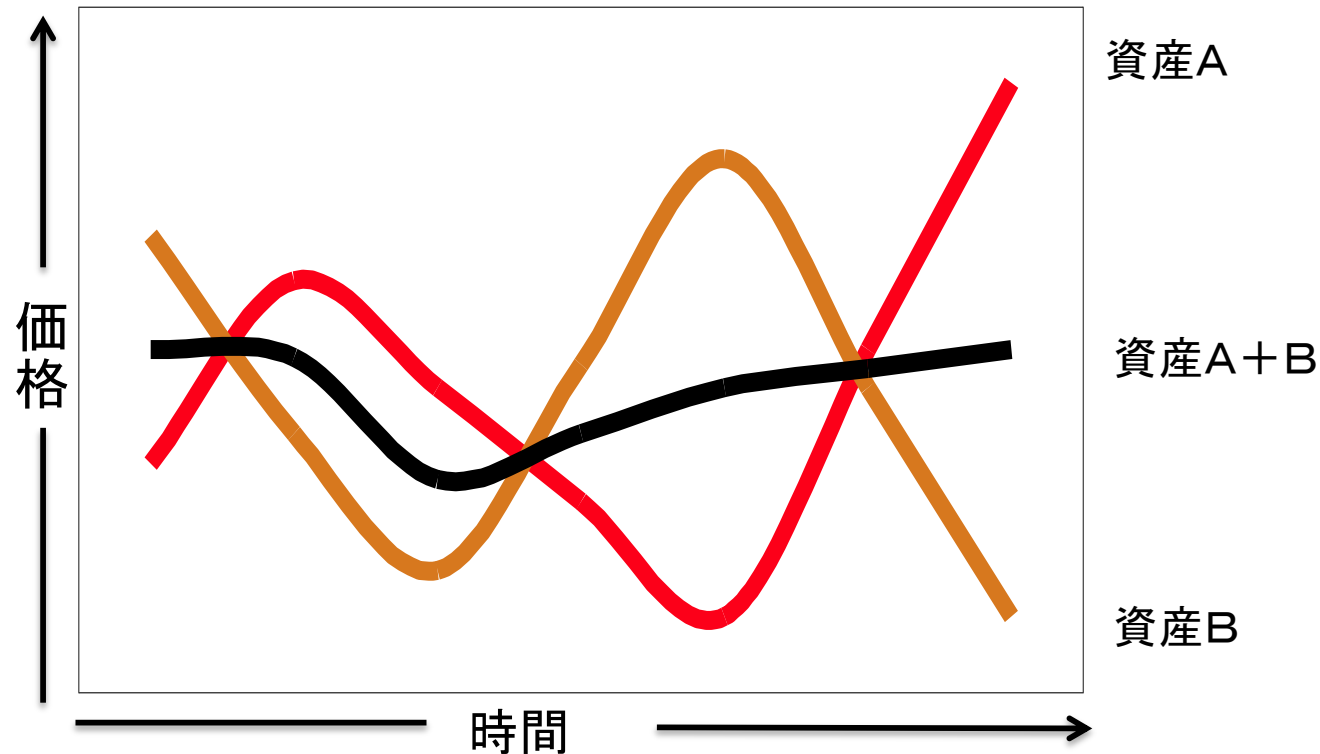
つみたてNISA早わかりガイドブックを参考に
してね！



ポイントは3つ！「適切に分散して、
低コストの商品を使って長期で積
み立て投資をして行くこと！」

分散投資

◎値動きの違う資産を組み合わせることが大切。◎リターンはコントロールできないが、リスクはコントロールできる。



運用スタイル(インデックス運用とアクティブ運用)

目標とする指標

実績

.....

—————

インデックス運用
指標に連動することを
目指す
銘柄構成は指標と
ほぼ同じ

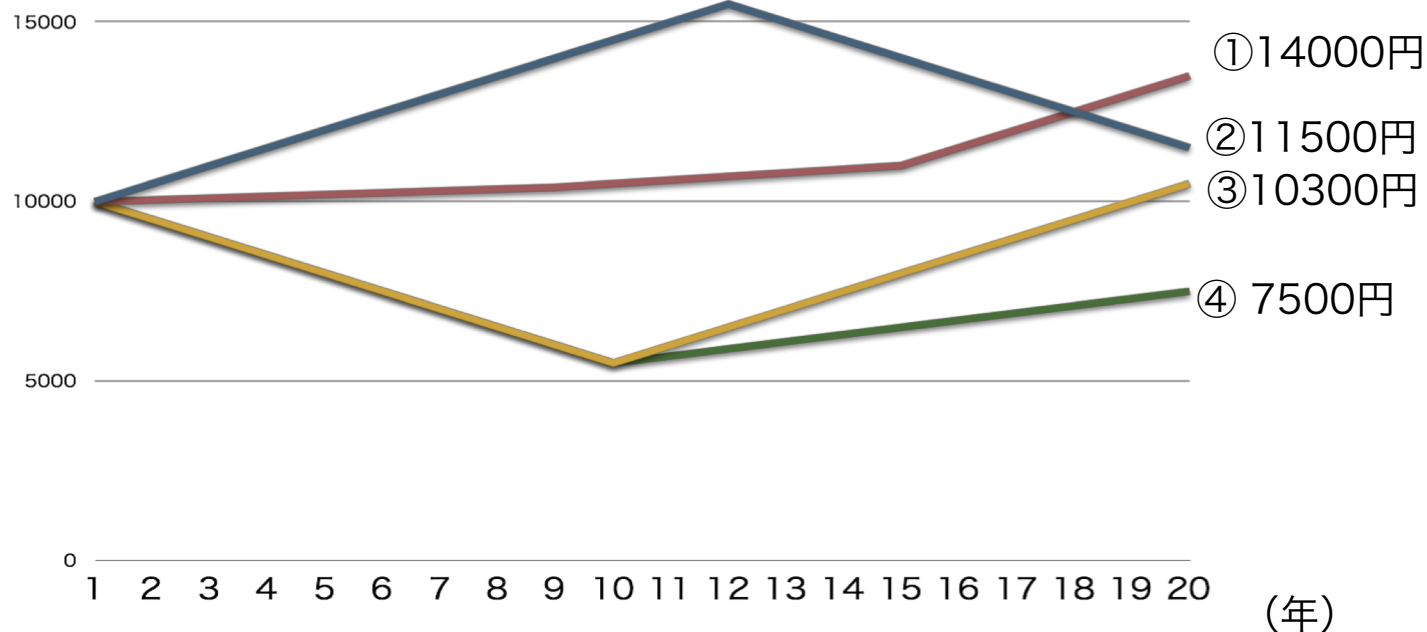
指標とほとんど同
じ値動き

アクティブ運用
指標を上回ることを
目指す銘柄を
絞り込んで運用

指標を上回ることも
下回ることもある

【積立】毎月3万3000円ずつ(年間40万円)20年間投資をしました

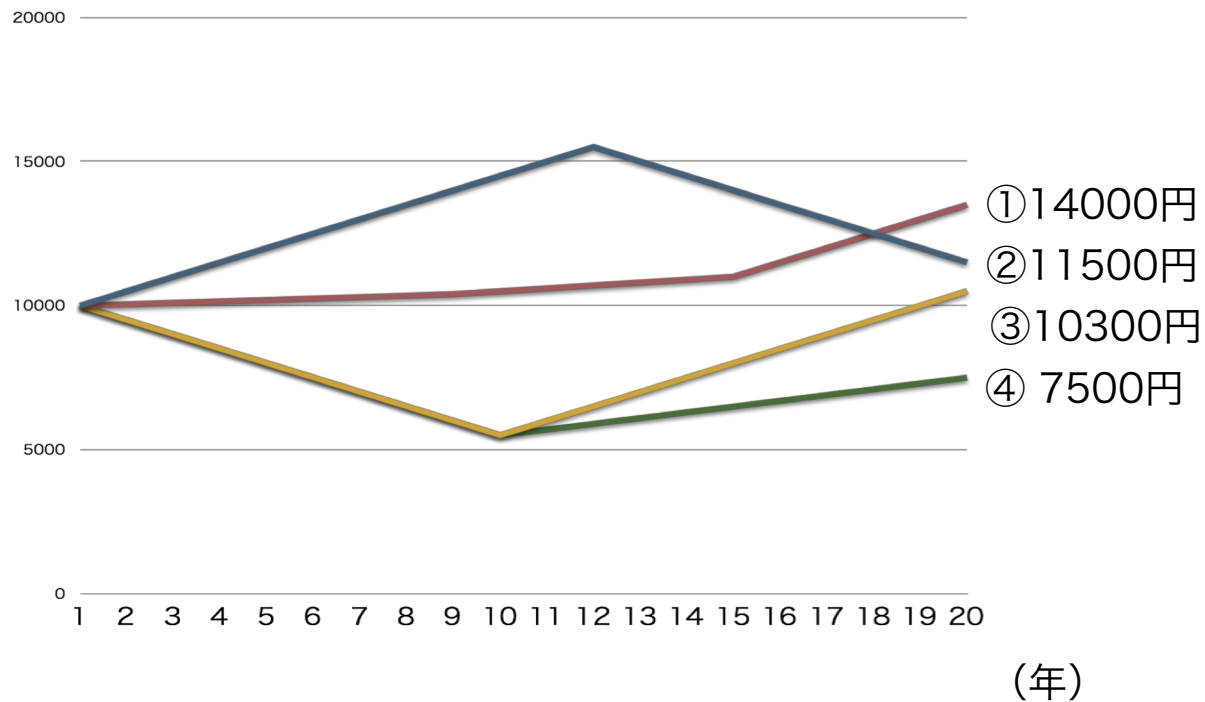
20000



どの投資信託を持っていたい？

毎月1万円ずつ買うと...

価格が10,000円的时候は1口買える。
価格が12,000円的时候は0.83口買える。
価格が5,000円的时候は2口買える。



投資元本は800万円

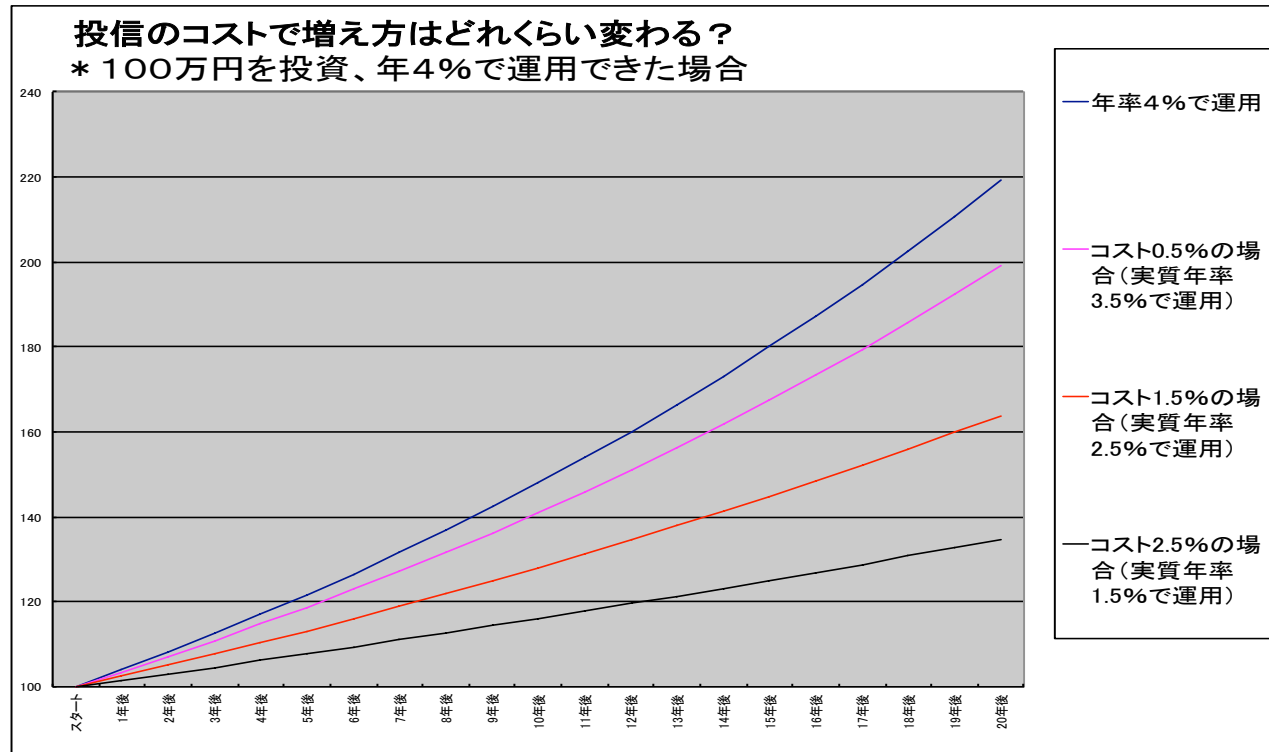
最終評価額 = 基準価額 × 口数

①	14,000円	×	730.6口	=	10,228,400円	2
②	11,500円	×	652.1口	=	7,499,150円	4
③	10,300円	×	1058.1口	=	10,898,430円	1
④	7,500円	×	1188.6口	=	8,914,500円	3



注意) 架空のファンドのシミュレーションです！

【低コスト】コストも複利で効いてくる



2018年1月からスタートした「**つみたてNISA**」は投資初心者の特におススメ！



金融庁のつみたてNISA特設ページ

<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/index.html>

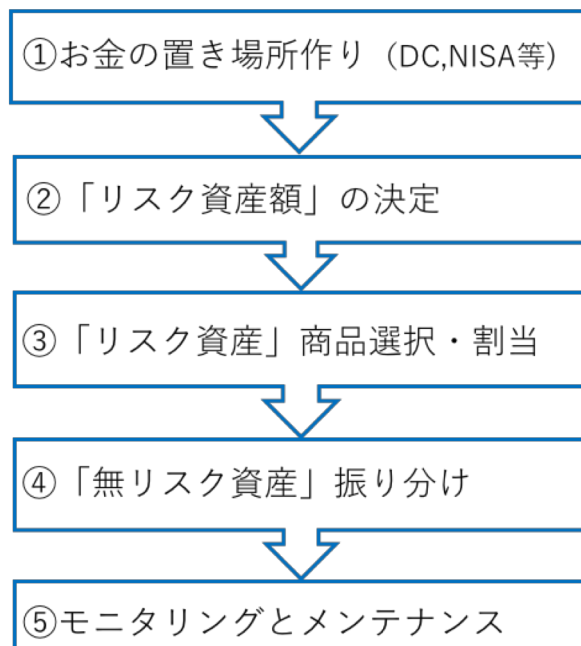
資産全体で考える

アセット・アロケーション

ア
セ
ッ
ト
・
ロ
ケ
ー
シ
ヨ
ン

	外国株式		国内株式		無リスク資産	
課税口座						
つみたてNISA						
確定拠出年金						
合計						

貯蓄の基本的な手順のまとめ



①お金の置き場所作り

・個人型の確定拠出年金に加入する場合は、(1)運用手数料の安い商品(特に外国株式のインデックスファンドを見て下さい)を用意しているかと、(2)管理手数料が安いのか、の2点が主な選択のポイント。

企業型の確定拠出年金の場合、会社の規約で可能な最大限の掛け金を拠出する。マッチング制度のある人は利用する。個人型も限度額いっぱい使う。

・銀行でも投資信託を買うことができるが、証券会社の方が扱う商品が豊富で、特に運用管理手数料が安いETF(上場型投資信託)を取り扱っているので優位性がある。ネット証券がお勧め。

②「リスク資産」の投資額決定

自分が運用するお金全体の中で「リスク資産」にいくら投資するかを決める。

「1年後に最大で3分の1損をするかもしれないが、同じくらいの確率で4割くらい儲かることがあり、平均的には無リスク資産よりも年率5%くらい利回りがいい運用対象」と考える。リスクを「360」で評価する。

③「リスク資産」の商品選択と運用場所への割り当て

リスク資産の6割は「外国株式(先進国株式)のインデックスファンド」、4割は「国内株式のインデックスファンド」に投資するのがいいでしょうとオススメしている。

④「無リスク資産」を個人向け国債と普通預金に

運用資産全体から「リスク資産」での運用額を差し引いた残りを、「無リスク資産」とする。当面使わないお金は「個人向け国債変動金利型10年満期」に、使う可能性があるお金は、銀行の「普通預金」に振り分けるとよい。(一人、一行、1千万円まで)

⑤モニタリングとメンテナンス

運用体制が決まったら、あとは、運用の状況を時々確認する「モニタリング」と、生活の事情や金融環境が大きく変わった時に「リスク資産」での運用額を変更するなどの、いわば「メンテナンス」の作業が必要。

リスク資産については、外国株式と国内株式のバランスが1割程度くるっても、大きな影響はない。比率が小さい方を少し多めに買い増すくらいのことを心掛けておくと十分。マーケットの「上り下がり」の情報に踊らされて売買をしてはいけない。プロも含めて、「上がりそう！」「下がりそう！」という見通しは、「当たったり、外れたり五分五分」なのが普通。「長い目で見て勝率が5割を大きく上回る人は、まずいない」そう。

◎金融庁が、2016年9月に出した「金融レポート(平成27事務年度版)」の中で、投資家にとっての適性や実質的な手数料の高さなどから問題にした商品「3大ダメ商品」を買わないようにしましょう！

- (1) 毎月分配型など頻繁に分配金がある投資信託、
- (2) ラップ運用、
- (3) 貯蓄性の生命保険(主に外貨建て)、 の3商品。



ご静聴いただきありがとうございました！